

安全データシート

作成日 2014年 2月21日

改訂日 2016年 4月 7日 1/4頁

SDS No. 3001-0002

1 化学品及び会社情報

化学品の名称 : ガラスウール
会社名 : ジーエルサイエンス株式会社
住所 : 東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー30F
電話番号 : 03-5323-6611
FAX番号 : 03-5323-6622
製品コード : 3001-12504、3001-12505
緊急連絡先 : ジーエルサイエンス(株)福島工場 品質保証課 電話 024-533-2244(代表)
整理番号(SDS No.) : 3001-0002
推奨用途及び使用上の制限 : 試験・研究用

2 危険有害性の要約

GHS分類 : 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : 区分2
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激 : 区分2B
発がん性 : 区分2
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分3(気道刺激性)

GHSラベル要素 :



注意喚起語 : 警告
危険有害性情報 : 皮膚刺激
眼刺激
発がんのおそれの疑い
呼吸器への刺激のおそれ

注意書き

[安全対策]

: すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
取り扱い後はよく手を洗うこと。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

[応急措置]

: 皮膚に付着した場合:多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合:医師の手当てを受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して
いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合:医師の手当てを受けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師の手当てを受けること。
吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。

[保管]

: 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。

[廃棄]

: 内容物や容器を適切な焼却炉で焼却するか都道府県知事の許可を受けた専門の廃
棄処理業者に委託処理すること。

上記で記載がない危険有害性は分類対象外、分類できないまたは区分外。

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分 : 化学物質
化学名(又は一般名) : ガラスウール
含有量 : >99%
化学式又は構造式 : SiO₂
官報公示整理番号 : 設定されていない
CAS No. : 65997-17-3
危険有害成分 : ガラスウール

4 応急処置

- 吸入した場合 : 新鮮な空気の場所に移動させ安静にし、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
可能であれば軽く鼻をかむ。鼻や喉にかゆみや痛みなどの異常がある場合には医師の手当てを受けること。気分が悪い場合には医師の手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちにすべての汚染された衣類を取り除くこと。接触した部分をこすらずに、多量の水および石鹼で洗い流すこと。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
刺激が直らないなどの場合には医師の手当てを受けること。
- 眼に入った場合 : 粉塵が接触した場合、眼球を傷つけるため、絶対にこすらない。直ちにコンタクトレンズを外し、少なくとも15分以上大量の水で眼を洗う。
医師の手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 吐き出させて口をすすぎ、うがいをする。医師の手当てを受けること。
- 急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状 : 粘膜や気道、皮膚や眼の刺激などが起こる可能性がある。
- 応急措置をする者の保護 : 救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。

5 火災時の措置

- 消火剤 : 本製品は不燃物のため、周辺に適した消火方法を用いること。
- 使ってはならない消火剤 : 棒状注水
- 火災時の特有危険有害性 : 火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム(またはガス)が発生するため、消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
- 特有の消火方法 : 移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。移動不可能な場合には周辺を水噴霧で冷却する。作業は風上から行い、必ず保護具を着用する。
- 消火を行う者の保護 : 燃焼又は高温により有害なガスが発生するので、消火活動は風上から行い、必ず呼吸保護具を着用する。

6 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。
風上から作業して、風下の人を退避させる。
- 環境に対する注意事項 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
- 回収・中和 : 漏洩物を掃き集めて密閉できる容器に回収する。

7 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 屋内作業場における取扱い場所では、局所排気装置を使用する。
取扱場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 安全取扱注意事項 : 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。
漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵を発生させない。
眼および皮膚への接触、酸性物質や酸化剤との接触を避ける。
- 衛生対策 : 取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。
指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。
休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。
- 保管
- 適切な保管条件 : 直射日光を避け、換気の良いなるべく涼しい場所で容器を密閉して保管する。
- 混触危険物質 : 酸化剤、酸化性物質
- 安全な容器包装材料 : 特になし

8 暴露防止措置

| | |
|---------------|---|
| 設備対策 | : 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、又は局所排気装置を設置する。 取り扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。 |
| 管理濃度 作業環境評価基準 | : 3.0mg/m ³ (吸入性粉じん) |
| 許容濃度 | |
| 日本産業衛生学会 | : 1f/mL(暫定値) |
| ACGIH TLV(s) | : 1f/cc(長さ5μm以上、アスペクト比(長さ/直径)3以上の吸入性繊維) |
| OSHA PEL | : 設定されていない |
| 保護具 | |
| 呼吸器の保護具 | : 防塵マスク、空気呼吸器 |
| 手の保護具 | : 保護手袋(皮製などガラスを通しにくいもの) |
| 眼の保護具 | : 防塵眼鏡 |
| 皮膚及び身体の保護具 | : 保護長靴、作業衣 |
| 適切な衛生対策 | : マスク等の吸着剤の交換は定期又は使用の都度行う。 取扱後はよく手を洗う。 |

9 物理的及び化学的性質

| | |
|----------------------|---|
| 形状 | : 綿状(ガラス繊維集合体) |
| 色 | : 白色 |
| 臭い | : なし |
| pH | : データなし |
| 融点 | : 約710°C |
| 沸点 | : データなし |
| 引火点 | : 不燃性 |
| 爆発範囲(上限・下限) | : データなし |
| 蒸気圧 | : データなし |
| 蒸気密度(空気=1) | : データなし |
| 比重 | : 約2.5(塊状) |
| 溶媒に対する溶解性 | : 水、メタノール、エタノール、アセトンに不溶。 フッ化水素酸、強アルカリ性物質に可溶。 |
| オクタノール／水分配係数log Po/w | : データなし |
| 自然発火温度 | : データなし |
| 分解温度 | : データなし |

10 安定性及び反応性

| | |
|--------------|-----------------|
| 安定性 | : 適切な条件下において安定。 |
| 危険有害反応可能性 | : 適切な条件下において安定。 |
| 避けるべき条件 | : 湿気、日光、熱、粉塵の拡散 |
| 混蝕危険物質 | : 酸性物質、酸化剤 |
| 危険有害な分解生成物 | : データなし |
| 推奨用途及び使用上の制限 | : 試験・研究用 |

11 有害性情報

| | |
|-------------------|--------------------------------------|
| 急性毒性 | : データなし |
| 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 | : 職業ばく露で機械的刺激により、一時的に搔痒と刺激を生じる場合がある。 |
| 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 | : 職業ばく露で一時的に機械的刺激を生じる場合がある。 |
| 感作性 | : データなし |
| 生殖細胞変異原性 | : データなし |
| 発がん性 | : IARCでグループ2Bに分類されている。 |
| 生殖毒性 | : データなし |
| 特定標的臓器毒性(単回ばく露) | : 職業ばく露で一時的な気道刺激性がある場合がある。 |
| 吸引性呼吸器有害性 | : データなし |

| | | |
|-----|----------|------------------------|
| 1 2 | 環境影響情報 | |
| | 生態毒性 | : 魚毒性 TLm96; 1000ppm以上 |
| | 残留性/分解性 | : データなし |
| | 生態蓄積性 | : データなし |
| | 土壤中の移動性 | : データなし |
| | オゾン層への影響 | : 本製品はオゾン層破壊物質に該当しない |

| | | |
|-----|----------|---|
| 1 3 | 廃棄上の注意 | |
| | 残余廃棄物 | : 廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。 都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。 |
| | 汚染容器及び包装 | : 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。 |

| | | |
|-----|--------|--|
| 1 4 | 輸送上の注意 | |
| | 国連分類 | : 非該当 |
| | 海洋汚染物質 | : 非該当 |
| | 注意事項 | : 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。 転倒、落下、破損がないように積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。 |

| | | |
|-----|---------------|---------------------------------------|
| 1 5 | 適用法令 | |
| | 毒物及び劇物取締法 | : 非該当 |
| | 労働安全衛生法 | : 施行令第18条の2 名称等を通知すべき有害物 別表第9 No. 314 |
| | 化学物質排出把握管理促進法 | : 非該当 |
| | 化学物質審査規制法 | : 非該当 |
| | 消防法 | : 非該当 |
| | 船舶安全法(危規則) | : 非該当 |
| | 航空法 | : 非該当 |

| | | |
|-----|--------|--|
| 1 6 | その他の情報 | |
| | 引用文献等 | |
| | | 化学品安全管理データブック 化学工業日報社 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム(CHRIP) 安全衛生情報センター 16514の化学商品 化学工業日報社(2014) 他 |

記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願い致します。